

平成26年度中学部 英語科授業の変更点について

シカゴ日本人学校 英語科

■ 中学部の英語授業について

英語は週5時間を確保。日本人教員による英語Ⅰとネイティブ教員による英語Ⅱで構成。現地校出身の生徒から中学校で初めて英語にふれる生徒まで、さまざまなレベルの生徒が各々の英語力を高く伸ばせるよう、英語Ⅰでは2段階、英語Ⅱでは3段階のコースを設定。英語初心者の生徒でも3年間で英検準2級合格、現地校出身の生徒では英検準1級という高い目標を目指す。

■ 変更のポイント

より生徒一人ひとりに合った指導と評価を行うために、

- ①英語Ⅰの授業を習熟度2段階コースにする
- ②英語Ⅰと英語Ⅱの授業時数をコースによって変える（週5時間は変更なし）
- ③英語Ⅱの教科書を選びなおす（3年間のカリキュラムを見通して）
- ④英語ⅠとⅡの評価を統合（テスト偏重から、授業中の頑張りをより評価する方向へ）

■ ①英語Ⅰの授業を習熟度2段階コースにする

● 英語Ⅰは2段階コース

◇ レギュラーR

- ▶ 中学校で初めて本格的に英語を学ぶ生徒や、英語力をこれからつけていく生徒向けのクラス
- ▶ 国内の教科書を読んだり、単語や文法を覚えたり、基礎基本の定着を図るレベル

◇ スーパーS

- ▶ 現地校出身の生徒や、英語力の高い生徒向けのクラス（英検2級から準1級程度）
- ▶ 国内の教科書に準拠しながら、さらに洋書の読解や文法の発展的学習で応用力を身に付けるレベル

● 英語Ⅱは3段階コース

◇ 学年によりクラス名が異なる（1年：入門 E / 2年：初級 B / 3年：初級 HB）

- ▶ ネイティブ教員と英会話を行い、実際に英語を使いながら身に付けるクラス

◇ 学年によりクラス名が異なる（1年：入門 E / 2年：初級 B / 3年：初級 HB）

- ▶ ネイティブ教員と英会話を行い、実際に英語を使いながら身に付けるクラス

◇ 上級 A

- ▶ ネイティブ教員が現地校の教科書を使用して、読解や作文に挑戦するクラス（英語で英語を教える）

■ ②英語 I と英語 II の授業時数をコースによって変える（コースの決定等）

- 授業時数は週5時間、選択するコースにより英語 I と英語 II の授業時数が異なる
 - ▶ 英語 I がレギュラー R なら、英語 I が2時間+英語 II が3時間（合計5時間）
 - ▶ 英語 I がスーパー S なら、英語 I が1時間+英語 II が4時間（合計5時間）
- 英語 I でレギュラー R を選択した生徒は、英語 II では相当するクラスを履修
 - ▶ 英語 I でスーパー S を選択した生徒は、英語 II では上級 A クラスを履修
- コースの決定は進級テストを行い、I P T や英検等も考慮しながら行う
 - ▶ 容易なレベルアップやダウンにならないように、英語科内で基準を策定

■ ③英語 II の教科書を選びなおす

- 3年間のカリキュラムを見通して、下記図表の赤枠内の教科書をそれぞれ選定した

PTスコア	1	10	20	30	40	50	60	70
3年	英語 I	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <英語 I の教材> - New Horizon (検定済教科書) - 英語パーフェクトノート - 最高水準問題集 - 中学校の発展的学習 </div>		レギュラー R (2h)	レギュラー R (2h)	スーパー S (2h)	スーパー S (1h)	CONCEPTS FOR TODAY
	英語 II			初級 HB (3h)	中級 I (2h)	中級 I (3h)	上級 A (4h)	上級 A (4h)
2年	英語 I		レギュラー R (2h)	レギュラー R (2h)		スーパー S (1h)	スーパー S (1h)	ISSUES FOR TODAY
	英語 II		初級 B (3h)	初級 HB (3h)	初級 HB (3h)	上級 A (4h)	上級 A (4h)	
1年	英語 I		レギュラー R (2h)	レギュラー R (2h)		スーパー S (1h)	スーパー S (1h)	INSIGHTS FOR TODAY
	英語 II		入門 E (3h)	初級 B (3h)	初級 B (3h)	上級 A (4h)	上級 A (4h)	
英語 II の教科書		Side by Side 1	Side by Side 2	Side by Side 3	Side by Side 4 (2020)			

学習指導要領： 小学校 中学校 高校 大学

英検： 5級 4級 3級 準2級 2級 準1級

■ ④英語 I と II の評価を統合

- 定期テストは「外国語」の1教科に統合
 - ▶ 共通問題50点（英語 I）+ 選択問題50点（英語 II）= 100点満点のテスト
 - 評価も「外国語」の1教科に統合
 - ▶ 評定5段階は、英語 I と英語 II を合わせて行う
 - ※ただし、英語 II 定期テストは評定5段階には加味しないが、その点数を通知表に併記する
 - ※観点別 ABC は、英語 I II それぞれ行い、その内訳を示す → コメントの所見欄を廃止
 - 定期テストだけでなく、授業中の活動にもより重きを置いた評価をする
 - ▶ 授業中の活動を通して評価するもの
 - ◇ 出席、提出物等 → 観点「関心・意欲・態度」
 - ◇ 暗唱（プレゼンテーション）、英作文（エッセイ）等 → 観点「表現の能力」
 - ▶ 定期テストで評価するもの
 - ◇ 英文読解等 → 観点「理解の能力」
 - ◇ 語いや文法等 → 観点「言語文化の知識理解」
- ※英語 I は国内の教科書に準拠した統一テスト、英語 II はコース別の学習内容とする

■ 実際にある2つのケース

● ケース1

- 生徒A：教科書を基本に勉強・提出物も真面目に取り組む・テストが思わしくない
- 生徒B：英語は得意な方・提出物は正直…手抜き・テストは良い
- ◇ 改善策：**どの生徒にも励みを与えながら、改善点を指摘する評価を！**
→授業中の活動をより評価する

● ケース2

- 生徒A：レギュラーR（初級H）・英語コースは教科書並み・テストは80点
- 生徒B：スーパーS（上級A）・英語コースは英検2級並み・テストは60点
- ◇ 改善策：**どの生徒もやる気にさせながら、整合性のある評価を！**
→英語Ⅱの定期テストは評定5段階には加味しないが、
その点数を通知表に併記する